

2-4. 避難行動の種類

立退き避難（水平避難）

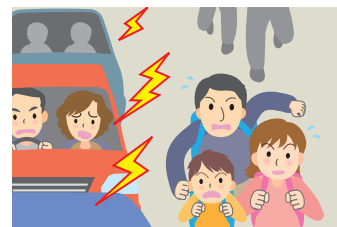


河川の近くや浸水深が大きくなる地域、家屋流失のおそれがある区域、土砂災害（特別）警戒区域など、そこにとどまることが危険な場合などは、指定された避難所、親戚・友人宅や近隣の安全な場所などへ立退き避難をしましょう。立退き避難は災害が発生する前に行うことが原則です。

立退き避難（水平避難）のポイント

車での避難は危険！ 避難は徒歩で！

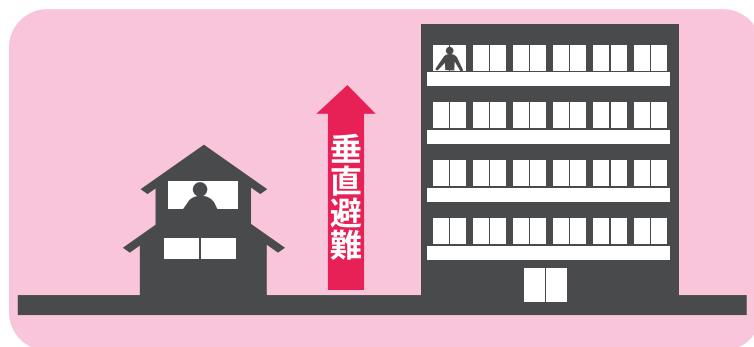
大雨時に車で移動すると、「閉じ込められた」「流された」「冠水したところに車が入り、車内に閉じ込められて脱出できない」などのリスクが考えられます。避難するときは必ず徒歩で避難しましょう。



『自分は大丈夫』と思わない

逃げ遅れの原因の一つとして「自分は大丈夫」と思って避難をせず、危険を感じた時にはもう逃げられない状況に陥っているという事例がたくさん報告されています。
“我がこと意識”をもって、早めの避難を心がけましょう。

屋内安全確保（垂直避難）



夜間や急激な降雨により、避難所までの経路にある危険箇所が分かりにくい場合や、浸水などにより歩くことが困難な場合など、屋外に出ることがかえって危険なときは、自宅の2階以上や近隣のより高い建物へ避難するなど最大限、命を守る行動をとりましょう。

2-5. 避難時の心得

●お年寄りや子供、病気の方、体の不自由な方などは、早めの避難が必要です。避難に支援が必要な方に協力しましょう。



●警戒レベル3で高齢者等は避難を！ 避難に時間を要する人は、警戒レベル3が発令されたときは速やかに立退き避難を行いましょう。

●避難判断は自分で！ 気象情報や避難情報などの防災情報をもとに、自主的避難を心がけましょう。



●避難するときは動きやすい格好で。2人以上での避難を心がけましょう。



●夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しておきましょう。



●もし逃げ遅れたら斜面と反対側の建物の2階の部屋に移動して、自分の身を守りましょう！



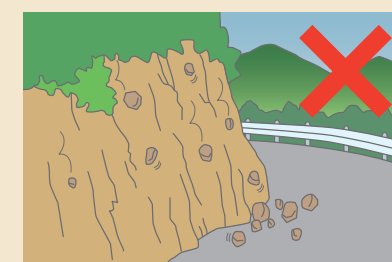
●避難所が近くにないときは、近所の丈夫な建物の上の階へ一時的に避難しましょう。



●危険な場所には近づかない



河川やため池には近づかない！



がけのそばには近づかない！

こんな場所にも注意！

谷川に大きな石がゴロゴロある所。裏山に急な谷川がある所。過去に冠水したことがある所。